

シルバー さくら



公益社団法人

佐倉市シルバー人材センター

〒285-0025 千葉県佐倉市鎌木町198番地2

レインボープラザ佐倉2F

電話：043-486-5482(代) FAX：043-486-5419

メールアドレス

sakurassjc@sjc.ne.jp

ホームページ

<http://webc.sjc.ne.jp/sakurassjc/>



左のQRコードを読み取ると、(公益社団法人)佐倉市シルバー人材センターのホームページが開きます。

令和5年10月1日 発行

第 131 号

ハローシニア佐倉

(公益社団法人)佐倉市シルバー人材センター



撮影／広報委員 鷗崎 金次

特集

SSJC

活躍する女性会員

『女性の活躍』は令和の時代にあつて益々重要になっていきます。SSJCも中期計画でこのテーマに取り組んでいます。SSJCの会員総数は7月時点で1,025名、その30%は女性会員です。これを34%まで増やす目標です。職種によっては女性会員の比率が高いものもあります。一人ひとりのサービスタ活動は小さなものでも、これ等がひとつの塊となつてSSJCの大きなサービスタになります。理事活動委員会では5名の女性委員が活躍しています。この5名で、所属する其々の委員会の活動にとらわれない形の女性部会を編成し、女性の視点を活かした独自の活動を展開しています。

今回はSSJCの女性部会で活躍する女性委員並びに様々な職群や仕事の場面で活躍する女性会員を紹介いたします。

アイデア湧き出る女性部会

女性部会のプロフィール

委員構成は女性のみです。狙いは『女性の感性・視点をSSJCの活動に活かす』ことにあります。現在は、会員拡大委員会所属の4名、就業開拓委員会所属の1名の合計5名で活動しています。活動をはじめ2年になります。SSJCの認知度を高めるのを目的として様々なイベントを企画し、その実現に向けて皆で知恵を出し合います。『SSJCイメージポスター』、『季刊誌 シルボヌヌ』、『季節のイベント・ひな飾りの展示』、『趣味の講習会(第1部)+茶話会(第2部)』、『女性専用入会説明会』はここから誕生しました。

会議は自由闊達

二ヶ月に一度の定期会議で活動テーマ、それを実践するアイデア、具体的な企画案等を自由に話し合います。ひとつの提案から議論を展開し、そこから派生したアイデアも活動のヒントになります。新企画の進捗も確認します。会議とは言いながら堅苦しさはありません。女性同士の話し合いと楽しいお喋りのうちに脱線することもありますが、上手く収まって良い結論に辿り着いています。各委員が所属する委員会の活動に活かされるアイデアが生まれることもあります。

女性部会 メンバー集合



左より 辰巳さん、野崎さん、難波さん、尾利出さん
※上原さんはこの日の会議はお休みでした。

最新の企画です

『認知症サポーター養成講習』を9月27日に開催しました。認知症は誰でもかかる可能性のある身近な病気です。佐倉市高齢者福祉課より専門講師を派遣してもらい、正しい理解のもとに認知症と向き合えるように、基礎的な知識を教えてもらいました。10月29日にはシルバーフェスタ2023が開催されます。女性部会ではここに『バザー』を出店します。家庭では使うことがなくなつた物品を会員から提供してもらい、これ等を販売してその売り上げ金を寄付します。

元気瀟々な女性部会の活躍を期待しています。

活躍する女性会員



刃物研ぎ班
小川 しげ子さん
(佐倉・和田地区)

お料理を楽しく

『大好きな料理を楽しみたい』との思いから刃物研ぎ職養成基礎講習を受講したのが、本格的な庖丁研ぎの始まりです。いくら砥石で研いでも自己流では満足な切れ具合には仕上がらない。その訳は講習を受けて分かったのです。砥石の選択、研ぎ方、砥石の手入方法が適切ではなかったなど。そこから技能研鑽の日々が始まり、数日本の研ぎを重ねるうちに技量も向上。自分の思い通りに研げた庖丁で1枚の新聞紙をスーッと切れた瞬間には『やったー!』『出来た!』という思いが湧き上がり、料理の下拵えも、気持ち良く切れる庖丁で楽しさは倍増するとのこと。お客さまに『良く切れるよ』と喜ばれて再び研ぎの依頼を受けた時はとてもうれしくて、研ぎにぐっと気持ちが入るとのことです。

刃物研ぎ班では3名の女性が活躍しています。皆さん!安全第一で研いでください。

紹介します!女性会員

自分にぴったりの仕事

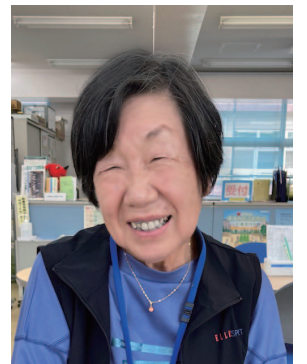


事務局 入力担当
高橋 里枝子(りえこ)さん
(白井・千代田地区)

「2年前に入会したもののなかなか自分に合った仕事が見つからないでしたが、今年5月から事務局の入力の仕事に付くことができました。自分にぴったりの仕事だと感じています」と、事務局で活躍中の高橋里枝子(りえこ)さん。定年退職するまで21年間銀行のオペレーションセンターで仕事をしていた経験を今の仕事に生かしています。現在入力を担当は2名、月初めの忙しい週は、週に4日、他の週は2〜3日の出勤です。「入力データは配分金の計算に繋がりますので、絶対に間違っってはいけないという緊張感を持って仕事をしています」と、高橋さん。最近地域班の班長さんと七井戸公園でのボランティア清掃のリーダーも任せられ、大変忙しくなったとのこと。

私生活ではEテレの「みんなの体操」をビデオにも撮りながら、2年間欠かさず続けているほか、最近宝塚に凝っていて、気が付けば今年はもう5回も日比谷の宝塚劇場に通っているほどの大ファンになっていた、とのことでした。

健康維持・筋力維持のために



生活支援
永井 朱美(あけみ)さん
(佐倉・和田地区)

昨年、会員10年の永年会員の表彰を受けたのは生活支援で活躍している永井朱美(ながいあけみ)さん。入会以来生活支援とふるさと広場のフラワーフェスタの応援仕事にも参加しているベテラン会員です。一昨年免許証を返上したため今は歩きか自転車を通える範囲で各2時間、5件のお客さまの仕事をしています。「生活支援はお掃除の仕方ひとつでも、お客さまのご要望に沿ってゆくりと、時間をかけてお客さまと馴染んでいくお仕事です」と永井さん。

私生活では健康のため2つのトレーニングを続けています。ひとつは市役所が城址公園で開催している「ポールdeウォーク」。先生の指導で2本のウォーキング専用のポール(ストック)を持って城址公園を歩きます。始めて3年経ち、友だち関係も広がっています、とのこと。もうひとつは体操教室。「ぎっくり腰のリハビリとして始めて、もう5年も続けています。楽しんでいきます」と、健康維持・筋力維持を怠らない永井さんでした。

人生ヒイラギのように



植木職
田代 エイ子さん
(志津北地区)

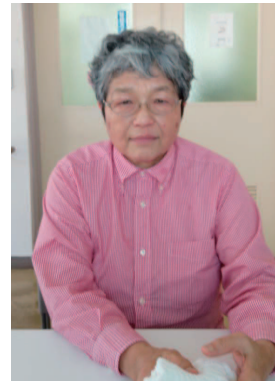
「シルバーに入会したのは14年前、最初は生活支援の仕事でしたが10年前、第22期生の植木職養成講座で勉強をし植木職の仕事を始めました。子どもの時から男の子に混じって野山を走り回っていましたから、植木の仕事は好きですし、男性と同じ仕事をするのは何の苦もありませんよ」

「ボサボサの樹をきれいに調べていくのは、作品を作るデザイナーの心境です」と、植木職で活躍中の田代エイ子さん。春と秋のピーク時には毎日仕事が入っていて、忙しい時には人出が足りなくなるのが悩みとのこと。

現在、志津地区の植木職の会員は約45名、そのうち実際に植木の仕事をしている女性は2名だけ、面白い仕事なのでもっと女性に参加して欲しいとのこと。

お父さまがよく言っていたという樹にまつわるいいお話を聞きました。「ヒイラギの葉っぱには鋭いトゲがありますが、古木になるとトゲがなくなり、丸い葉に変わります。人間老いては、ヒイラギの葉の様に丸く生きたいものですね」

活躍する女性会員



訪問介護
渡邊 映子 さん
(根郷・弥富地区)

) 家事の延長線上で楽しく)

ご主人が転勤族で全国各地を転々としてきた渡邊さん。令和元年ご主人と共にシルバークラブに参加。ヘルパーの資格を持っていたことから訪問介護の職に。

実は54歳の時に脳梗塞となり左手が上がらない状況に、また後に更年期障害で体調変化も経験。「私は他の多くのメンバーと違い介護に必要な資格や経験がないので買い物・掃除・洗濯・料理など家事の延長線上でやらせて頂いております」。介護を受ける方々にも様々なケースがあり、戦争未亡人が多く暮らす地域や生活保護を受けている方など。しかし共通しているのは「自分でできる事は自分でやる」というプライドを強く持っていることを感じます。ついついやってあげたいと思うこともあるのですが、「やってはいけないのです」。



福祉有償運送
女性ドライバー
山本 一枝 さん
(根郷・弥富地区)

) 女性ならではの気遣いで楽しく)

この福祉有償運送事業は千葉県内でも珍しい試みで市内の利用登録者数は現在約350名。

利用者は「要支援・要介護認定者及び身体障害者」で、年会費3千円の登録が必要。利用の際は事前の予約を入れる。今回は令和2年9月からこの職につく山本さんから話を聞いた。

利用者の3分の2近くが女性であり、かつ足や腰に故障を抱えているケースが多いため車(福祉対応)に乗るときも、降りるときにも「怖い」と感じる事があり、「手をかしてあげるなど女性ならではの気遣い」が活かしているとのこと。「80%〜90%の方に喜んでもらっていると感じています」。買い物や病院への送迎が多いという。なお、利用料金は使いやすいように民間タクシー会社の半額程度に設定。ケースによっては3分の1程度で済む場合もあるとのこと。

紹介します！女性会員

俳短柳同好会

短歌



熱中症仲間の善意に助けられ
歩いて帰る夫との家路

越川 圭子

物置の汚れた地下足袋九年ぶり
使う日あるか洗って待つ

小林 弘

ポランティアの植えしひまわりあまた咲く
映画のシーン思い起こさず

竹田 宗司

夕闇に門のわたりを佇めば
白き芙蓉の残り香のたつ

後藤 洋子

菊の花地元の名前見つけたり
牧野博士のサクラオグルマ

辰巳 くにか

夕暮れに声をかぎりに鳴くセミよ
生の終りか晩夏淋しき

野崎 ちづ子

ふくよかな頬とその手に触れたきに
遠きにおいてこの手届かず

中村 寛

菜園のキュウリとナスを漬漬けし
夕餉の菜に格別の味

廣田 正明

重かりきへろくな人生」と言ひ置ける
逝きにし母の一代を思ふ

横山 鈴子 講師